

【事業者名称】 スマイルグループホーム

平成22年3月17日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者本位のサービスの提供と、地域の社会資源として貢献していくために地域との積極的な連携強化を理念に掲げている。介護の原点は「安心」と「信頼」を出発点とし、「地域の人々に愛され信頼され親しまれるよう情熱と気概を持ち、質の高いサービスの提供により地域社会に貢献する」事を謳った理念を創り上げている。		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と基本方針は事業所内の数箇所に掲示して、理念の共有が図れるようにしている。また、理念と基本方針を記載した縮小版を職員証の裏面に入れ常時携帯したり、施設長が内部研修や各職員に理念の記述テストを行うなど、周知徹底を図っている。		
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念および基本方針をリーフレット、HP、事業所内に明示しており、日々のサービス提供を振り返り、理念がケアに確実に反映されていく様にしている。また、ご家族の方や地域の方々には、ご訪問やご見学の機会をとりまえて当会の理念を話させていただくなどにより、ご理解いただいている。		
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	さわやかな挨拶がすべての始まりとして、内外部において実践できる態勢づくりを行っている。職員をはじめ、夜間補助職員や夕食業務補助職員、運営委員会などに近隣から11名(うち、所在地の自治会の方は6名)の方の関わりもあり、地域との連携も図れており、開設から3年を経過する中で、顔見知りの方が増えてきた。散歩がでらに立ち寄り頂いたり、野菜の差し入れを頂いたりということで、気軽に立ち寄り頂ける日常的なお付き合いを頂いている。		
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会主催の夏祭りに参加し、利用者の方が大声コンテスト入賞するなど、住民との交流ができた。また季節の行事でお弁当を近隣の飲食店より低コストで提供してもらったり、夜間当直や、夕食作りなども地元のシルバー人材センターより来て頂いており、事業所と地域のパイプ役になってもらっている。その他地域の子供会の廃品回収にも協力するほか、当地寺倉地区から敬老会に職員がヴァイオリンの出前コンサートに出向いた。		
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当会創設にあたり、長浜市社会福祉協議会をはじめ、近隣施設に新人職員の現場研修ということで3ヶ月間ご指導を頂いたが、当会も創設3年目を向かえたことから、出前ヴァイオリンコンサートと称し、お世話になった事業所様へのお礼として、当GH職員によるヴァイオリンコンサートを実施した。		
地域とのつきあい 3項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価実施の意義を理解した上で、前回評価(自己・外部)における内容や課題について自己評価を行なった。12月よりケアを振り返り、今後の課題解決に向けて取り組んでいる。		
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議の開催をし、ご利用者やご家族代表者、地域住民の方からの希望や意見交換を行なっている。また、改善点については、職員会議等で議題に上げ、サービス向上につながるよう取り組んでいる。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は、湖北介護サービス事業者協議会の会長であり、市や県の担当者の方とは電話や訪問により緊密な連携を取っている。市には、毎月のくふう新聞(グループホーム通信)を持参し、訪問している。		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員には研修会に派遣し、内部研修を通じて共有化している。過去に成年後見制度及び地域権利擁護事業を活用したケースがあり、事例を通して学び、その必要性を話し合っている。		
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し知識を深めてもらい、内容の共有化と関係法令(高齢者虐待防止関連法)の理解を進めた。また内部研修も開催し周知を図った。同時に、虐待が起こらない環境づくりと、見過ごされることがないような体制作りを行なっている。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点のないよう契約前には時間をかけて事前説明をしている。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化した場合における対応に係る指針について詳しく説明し、理解と納得をしていただいでから契約を締結している。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が常にご利用者の方の言葉・表情・行動から変化を読み取ることに心がけ、記録に残し、周知・対応を行っている。また、運営会議では、ご利用者代表として意見発表をいただいているほか、ご利用者の方や家族からの意見が聞けるように意見箱などの設置をしている。		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身の変化時には電話にて報告し、面会時には最近の様子を伝えているとともに、くふう新聞(グループホーム通信)・個人だよりにより日常の様子を報告している。また、金銭管理については、お小遣いで使用される分については、当会入所者預かり金管理規定に則り、毎月の領収書、通帳の写し、個人別預かり金出納台帳の写しをご家族宛に送付している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員など苦情対応窓口を設け直接苦情を申し出ていただけることとし、掲示板に連絡先の明示している。また意見箱を設置したり、家族会を通しご家族同士の親睦を図り、意見や不満を聞きだす機会を作っている。さらに、運営推進会議のメンバーにご利用者2名、ご家族1名の方にご参加いただいております、中でも聞き取りを実施している。		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議の機会を持ち、意見交換、情報の共有化、提案の吸い取り、意識の統一を図ることとしている。		
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者本位の生活を目指し、ご利用者の生活ペースを基に職員が動いている。勤務や業務に関しては、必要に応じて見直しを行い散歩や外出等の希望に対応している。またサービス担当者会議では、できるかぎりご家族の希望日程に合わせて、担当職員・計画作成担当者や施設長及び課長が参加している。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職などによる職員の交代がある場合は、ご利用者へのダメージを極小化していくため、通常、引継ぎは2週間程度の余裕を持って行うこととしているほか、遺漏がないよう引継書によって引継ぎを完結させるものとしている。また、ご家族には文書にて連絡実施する他、家族会開催時や面会時に、職員の紹介を実施している。		
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成21年度は、県の介護職員等派遣支援事業により、研修により不足する職員の代替職員としてパート職員を1名採用し、職員の質の向上と育成の為、外部研修及び内部研修に積極的に参加している。これにより、認知症実践者研修も21年度は3名の職員が受講できた。また、研修後には、必ず職員が伝達講習を行い、共有化している。		
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖北介護サービス事業者協議会を設置し交流会や研修会を通じて、情報・意見交換を行いサービスの質の向上を図っている。また、湖北地域以外でもネットワークづくりを積極的に持ち、質の向上を目指している。県の複数事業所連携事業を導入し、米原市・長浜市の5事業所でユニットを形成し研修や交流を行い、日々向上することとしている。(県内15ユニット、湖北地区唯一のユニット)		
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	オンオフの切り替えができるよう、残業ゼロや希望休暇ならびに有給休暇の取りやすい環境づくりを行なっている。また、県社協のシスタープラザ育成研修に平成22年度(申込済)より職員を派遣し、職務上のアドバイスや悩み事など気軽に相談できる体制作りを行なっている。		
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半期毎の個人面談の実施とチャレンジシートの活用にて、各自の目標を明確化している。チャレンジシートは、半期経過後に業務のあり方を自己評価や上司評価により振り返り、次の半期後の目標を掲げることとしている。		
人材の育成と支援 4項目中 4項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談については、ご本人やご家族はもちろん各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターと連携し、面接や電話相談を行っている。不安な事困っていることは何なのか、受付簿やフェイスシートの活用及びセンター方式でアセスメントを行い、ご本人をより深く知るよう努力している。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めておられること、悩み事などをゆっくりサービスを受けるにあたっての経緯を必ず聞きとっている。電話での相談も随時応じている。内容は、記録に残し全員で共有している。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご利用希望者の方にお会いして、(見学をお勧めしている)ご相談に応じている。相談内容で必要なサービスを判断の上、当施設で行えるサービスの説明を行っている。ご入居まで、デイサービスなどの他のサービスご利用も選択肢として提示している。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用希望者の状況・希望に合わせて体験入居も可能としているほか、安心していただくために、前もっての下見をお勧めしている。又、ご利用者の自宅を訪問して、生活暦等を聴き取り、入居後のケアに生かせるようアセスメントしている。特に入居当初は、ご利用者がなじんでいただけるよう十分な配慮を行うとともに、ご家族の綿密な連携を図っている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯、畑仕事など日常生活でご利用者の方が出来る事を見つけ出し、職員が支えることにより日常生活での活動・参加を作り出すとともに、ご利用者の方から職員が教えてもらう場面もあるなど、互いに助け合える関係を築いている。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	綿密にご家族と連絡を取り合い、ご利用者近況の状態を伝えると共に、ご家族にもご利用者の方を支えていく一員としての協力を求めている。カラオケ大会では、利用者の希望もあり、家族の見学や昼食も一緒にとるなどして、楽しいひとときを共にした。		
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者の方とご家族との関係を担当職員はじめ全職員が把握して、より良い関係を継続していただけるように支援できるようにしている。また、月間レクリエーション計画表をご家族に送付し、一緒に参加して頂けるよう配慮している。		

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も従前の関係が途切れないように、お住まいされていた地域の祭り事や誕生日、母の日などに面会や外出のお迎えに来ていただけるように電話での働きかけをしている。散髪や毛染めなど、昔から行きつけの美容院へ続けて行かれています。ご利用者がおられたり、幼なじみの方からの電話や地域の方からの手紙などの連絡をとりもっている。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の場面でもお互いが助け合える場面や行事などの機会を作り、ご利用の皆さんと一緒に楽しめる様に努めており、ご利用者同士が支えあう環境が生まれている。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られるなどで、契約を終了された方への面会の実施や、必要とされる場合には相談にも応じるなどして、関係を断ち切らないように心がけている。実際に他の施設に移られた方のご家族からの相談があり、関係者と共に支援している。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回アセスメントでは、センター方式を活用し、ご利用者が言われたことを記入し、希望や意向をありのまま知る努力をしている。訴えが困難な場合でも、ご利用者のそばに寄り添う時間をつくり、本人が伝えたいことや求めていることを探っている。		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ちから今までの生活をご利用者やご家族から聴き取り、日常生活の場面で活かせる活動を生み出し、ご利用者の方がその人らしい生き方が出来るように努めている。		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の生活については、事前訪問の際に聞き取りを行っている。入居後については、センター方式の24時間生活変化シートを活用し、現状の把握を行っている。また、一日の過ごし方が職員全体に把握できるよう、介護記録を使用し一日の流れをつかみやすいように努めている。		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたり、本人や家族、担当職員および主治医の意見等を聞き、ニーズを導き出している。 また、本人の希望や職員のアイデアを反映してプラン作成している。		
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、本人・管理者・担当職員・計画作成担当者でモニタリングを行い、サービスの評価・処遇の見直しを行っている。目標達成までに必要な月間サービス目標を設定し、状況に応じたケアを行っている。さらに必要な場合は緊急カンファレンスも行っている。		
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に具体的な介護記録に残し、全職員が確認できるようにしている。業務日誌や週間介護記録の記入、申し送りにより情報の共有をしている。 また、定期的にケアプランに添った介護計画の見直しを行っている。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご希望があればご家族・ご兄弟との食事を一緒にして頂いたり、同室での宿泊も可能にしている。また、年末年始や週末等は自宅に外泊されることも支援している。その他、急に体の具合が悪くなった時、ご家族での受診が難しい場合は可能なかぎり職員で対応している。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組みでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺住民への働きかけや、ボランティアへの協力を呼びかけている。定期的に地域作業所が行っている駄菓子の移動販売を利用している。防火訓練についても消防署の方から出向いていただき年1回は総合訓練している。		
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	歯科医師による口腔歯科検診を行っている。 配食サービスや理美容サービスを利用することで、利用者の希望に応じている。		
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに出向いたり、来ていただいたりして総合的なケアマネジメントについての協調態勢を取っている。過去に、地域包括センターとの協調により、地域福祉権利擁護事業から成年後見制度に移行し、利用者の財産保全が図られ長期的、総合的なマネジメントが実践された。また、2ヶ月に1度の運営推進会議には、必ず地域包括支援センター職員もメンバーに入り、情報交換を行っている。		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医への受診を希望される場合は、ご家族同行をお願いしている。また、都合により定期的な受診が難しい利用者については、もとの主治医から診療情報をグループホーム協力医療機関に伝達している。定期的な往診は週1回依頼しており、検査結果や診療メモ等はご本人・ご家族に提示している。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医より必要とあれば専門医へ紹介状を書いてもらい、受診してもらっている。 グループホームからもサマリーを持参してもらっている。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスの看護職員や、契約している訪問看護ステーション(主治医の指示による)により、ご利用者の方の状態変化にも常に対応出来るようにしている。また、夜間でも相談・報告の出来る体制をとっている。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族・医療機関と頻りに連絡を取り合い、情報交換を行っている。退院カンファレンスにも施設長はじめ関係職員が必ず参加するようにしている。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に係る指針を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて、説明を行い同意を得ている。あくまでもグループホームは共同生活の場であることから、看取りケアの実施は行っていない。しかし、重度化した場合は早い段階からサービス担当者会議等で、ご本人やご家族等の意向も考慮しながら、全員で方針を共有している。必要時は心身の状態にあわせた施設や医療機関の紹介を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃の利用者の変化に対応したケアを旨としている。急変時には、早期に対応できるように医療機関と密に情報を共有し、救急マニュアルにて周知徹底している。 主治医とは、グループホームが対応できるケアを伝達し、その上で在宅医療への協力や他施設転居時の情報提供などお願いしている。		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えについては、事前に次の施設の下見を行ったりして、ご利用者にとってよりよい居所となるかどうか見極めをしている。また担当者や情報交換を行い必要な情報をご本人やご家族に提供して十分な話し合いを行っている。情報交換を行うことで、ダメージが最小限になるように努めている。		
地域資源との協働 10項目中 10項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	言葉掛けはプライバシーの重視やプライドを傷つけない様に、内部研修等で学び職員に徹底している。記録等の個人情報の取り扱いは当会個人情報保護規定に則り実施するほか、ご利用者の目に付く所には置かないようにしている。個人情報の使用・提供・取得に係る同意書を作成している。		
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別に声をかけ、ご利用者の希望を引き出すことや、自己決定できる場面を心がけている。 (飲み物・入浴・誕生会・外出・行事への参加)		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の時間割りはあるが、決して強制はしていない。 細かいスケジュールは作らず、ご利用者の状況・様子を見ながら一日の流れを一緒に作っている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事・外出時には、化粧・おしゃれを楽しんでもらえる様、メイクセラピーの講師を招き働きかけている。出張による理容、美容院によりカットなどの希望を聞いて対応している。また昔なじみの美容院へ行かれる利用者もおられる。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の料理の得意分野を把握し、一緒に調理・盛り付け・片付けを行っている。調理に参加できない方は、洗い物や食器拭きをして頂いている。また畑で野菜が収穫できた時は、その野菜を使って調理したり、お弁当を作り近く三島池や醒ヶ井にハイキングにでかけた。		
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙される方には、安全に喫煙できるように場所を設けている。その他嗜好品もできるだけ要望に添うようにしているが、体のことを考えて適度な量となるように見守っている。		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各ご利用者の排泄行動や間隔を把握し、トイレ誘導を行っている。また、随時個々に応じた排泄用具・パットの種類の見直し等を行い、気持ちよく過ごしていただけるようにしている。		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	必ず声掛けし、希望に応じている。冬至には季節を感じてもらうために毎年柚子湯を提供している。入浴好きな利用者には、可能なかぎり入浴していただき、好みで入浴剤を用いたりしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	これまでの生活習慣に応じた寝具にて、居室の温度調節にも配慮している。ご利用者の体調などを考慮し、休息をとって頂いている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事・外出等もご利用者の希望を取り入れて計画を立てており、得意なことで力を発揮できたり、好きな事が出来るように支援している。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の希望あれば安全に保管できるように、ご利用者各自に応じて工夫している。 通帳預かりをしている方も、ご本人の希望で、自由に出金できるようにしている。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には日光浴や畑仕事、近隣のコンビニへの買い物や散歩に出たり出来るように支援している。また、車で彦根城や三島池などの観光スポットなどにも出かけている。		
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、ご利用者の方の希望に応じてレストランやショッピングに出かけたり、季節を感じて頂けるよう長浜豊公園や、三島池の新緑見学などに出かけている。		
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友達からの電話、親戚・地域住民(老人会)からの手紙が届いている。ご利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙の返事を出せるよう支援している。		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めず、いつでも面会可能。ご面会者もご希望時には一緒に食事出来るようにしている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに則り、緊急時を除き身体的拘束をしないケアの取り組みを徹底し職員の共有認識を図っている。また、内部研修で、拘束の具体的な行為について理解している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の外からの施錠は、一切設けていない。ホームは集落から外れた国道沿いで、単独の外出が危険な為、施設の外に出て行かれるときは、気づき(ヒューマンセンサー)や目配りにより、付き添いを行い安全を確保している。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室・トイレに入るときは、必ずノックをしてから入るようにしている。居室不在時でも利用者に声を掛けてから入るようにしている。夜間は1時間毎に巡回して、安全確認をしている。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の方の状況に応じて対応し、随時検討を行っている。特に、針やハサミ、ナイフ等は使用時に把握、作業終了後には間違いの起こらぬよう管理している。		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書にて、介護事故の再発防止のための検討やカンファレンスにより、質の高いケアとリスクマネジメントの確立を図っている。各居室に転倒防止のため、足元センサーの設置や、夜間はセンサーを稼働している。		
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDを当グループホーム内に常設し、年に一度、消防署の協力を得て、救急講習(AED)を実施している。		
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当会では、夜間は夜勤職員1名と夜間補助職員1名の2名体制で運用している。各室に火災報知機とスプリンクラーを設置し、火災発生の際には消防署と総合警備保障に自動通報できるシステムとしている。また、予防消防の観点から、消防署の協力を得て、緊急時に備えているほか、迅速かつ的確な対応が実施できるように緊急時のマニュアルを周知徹底している。		
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化についてもご家族との連絡を密に取り合い、各ご利用者に起こりうるリスクについて十分に説明を行うとともに、それに合わせた対応策を説明している。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、血圧測定・検温を実施し、日常の様子を十分知った上で急変時の早期発見に繋がるように些細なことでも記録して情報を共有化している。(口頭での申し送りも実施している)主治医、家族にも迅速に報告し対応している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんや診療情報により用法・要領を明示し、1週間分の薬を個別の箱に入れている。さらに朝・昼・夕と別けて間違いがないか複数の職員が確認している。		
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養バランスの摂れた食事の提供、水分量の把握と散歩や体操などの適度な運動を実施している。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎月歯科医による口腔ケア指導をお願いし、ご本人や職員による個別の状態にあわせたケアを行っている。毎食後の口腔ケアは義歯洗浄の仕方、残存歯の磨き方や歯間ブラシの使用法などさまざまなケアの実践を行っている。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事摂取量や水分摂取量を記入し、申し送りをするなどして健康管理をしている。主治医の指示のもと食事量が減っている方には、高カロリー液を補給したり、発熱時などは電解質の水分を補給するなど状態に合わせてケアしている。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を毎年行っている。感染予防のマニュアルに則り、疾患別に対応している。感染防止のため、トイレ等の感染しやすい場所は消毒を行うほか、ウイルスブロックにより、ウイルス抑制の効果があるといわれている空気清浄機を設置している。		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間、調理器具は消毒を行い、食器乾燥機にて熱湯消毒している。食材は、毎日配達のものを使用しているため、新鮮なものをその日のうちに使い切ることが出来る。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に清潔を保ち、観葉植物など緑のものを置き明るくしている。中庭には芝生を植え、緑と親しめる環境を醸成している。農園があり、季節に応じた野菜や花を植え楽しんでいる。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関に季節の花を生けたりしている。トイレ使用後は、汚れ・流し忘れがないかチェックしあればその都度掃除するように努めている。また、不快な音や不快な光が出ないように配慮し、ゆったりくつろげるように心がけている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組みでいきいたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に腰かけを置き、個別の空間が持てるようにしている。居間にもテーブルやリクライニングチェア、ソファを置いて談笑できるようにしている。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使ってこられたもの・馴染みのあるものを持ち込んでもらえるようにしている。ベッドや整理タンスなどの配置を相談しながら決定している。ご利用者の希望により、畳を敷いたり写真をかざったりしている。		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉により、毎日新鮮な空気を取り込んでいる。また、ウイルスブロック機能付の空間洗浄システムの設置による抗菌、除菌、消臭に加え、冬期は加湿器を設置して、湿度にも注意を払っている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置とバリアフリーで動きやすい環境となっている。ただし、玄関の上りとは段差を設け脚力の低下防止が図れるようにしている。		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には手作りの表札を掲げている。便所、風呂などにも手作り表札を掲げて混乱のないようにしている。また、電気・スイッチ・ボタン操作などは、口頭での説明に加え解りやすく紙に書いて理解していただけるように配慮している。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の南側は広い畑になっており、季節の花や野菜の収穫ができるほか、天気の良い日はテラスや中庭と施設南側にある芝生広場で昼食会や休憩を行っている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
項目		14 取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

評価結果整理表

個別表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	4 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営（ 5項目/5項目）について

基本理念に「地域の人々とともに、愛され、安心かつ信頼をされる社会福祉法人」を掲げている。住み慣れた街で、1人ひとりが役割をもちお互いに生活を支える共同生活が送れるよう支援している。

住宅街からは少し離れた場所ではあるが、ご家族をはじめ地域ボランティアの方や地元のシルバーさんなどの出入りが多く、他方面から協力を得ている。また利用者の方の希望や状態に合わせてサービスを提供することや、本人の生活スタイルを大切にすることなどみんなで支えあいが出来ている。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援（ 2項目/2項目）について

スマイルグループホームでは、家庭で暮らしていた頃の生活習慣を大切にし、入居後の混乱を最小限に抑えることを目標としている。入居前にご自宅を訪問し、生活環境や習慣を把握するとともに、ご利用者がこれまで歩んでこられた生活歴やその人の個性（人となり）を把握するよう努めている。

入居後においても面会しやすい雰囲気をつくり、家族や地域との関係を断ち切らないよう継続して支援している。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント（ 4項目/4項目）について

入居後スタッフ全員でセンター方式によるアセスメントを行い、その人らしいあり方や安心して暮らせる環境づくり、自分の力を発揮できる場所の提供など分析している。ご家族にも協力してもらい過去の情報を聞き取り、ケアのヒントにしている。

ケアプラン立案には、主訴や家族・主治医の意見、介護職員のアイデアなどを取り入れニーズの大きいものから策定している。ケア実践しながら月に1度モニタリングを行い、プランと実践にズレがないかチェックしている。状態が急激に変化した場合には緊急カンファレンスを開催しプランを修正している。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援（ 7項目/7項目）について

毎日の暮らしが職員主導ではなく、利用者主体となれるよう生活の集団化・画一化しないよう努めている。

利用者1人ひとりの生活歴、性格、生き方の違い、食べ物の好き嫌いなど生活習慣に至るまで、違っているのが当たり前として捉え、その人らしい暮らしを支援している。

また、事故防止のための取り組みやリスクに対しても、本人や家族と話し合いを行っている。

重度化した場合においては、医療行為を伴うケースがほとんどで、その点をサポートできるよう非常勤医師と嘱託契約し医療連携による24時間体制を図っている。また、住替えの場合の他施設として、療養型病院・老人保健施設・特別養護老人ホーム等と契約し、連携強化を図っている。

V サービスの成果に関する項目について

ご利用者が自分のペースでゆったり過ごす空間作りが出来ている。散歩や外出も積極的に行い、いきいきとした表情や姿を見ることが職員の喜びにもつながっている。

医療との連携で安心して暮らしていけるようサポートしている。

ご利用者とご家族は、おおむねサービスに満足して頂いているようであるが、それに甘んじずこれからも一層の努力をしていきたいと思っている。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称 社会福祉法人近江薫風会

評価年月日:平成22年3月17日

前回評価年月日:平成21年5月15日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内容				
外5	1	運営推進会議を活かした取組で、確実に2ヶ月に一度の開催が出来ていなかった。	H21年5月以降～	確実に2ヶ月に1度の開催をしている。 会議内容は議事録を職員全員が確認すると共に、口頭伝達や職員会議での検討事案にしている。	達成できている。	
外8	2	運営に関する家族等の意見の反映について、家族会の開催が、定期的に行えることを期待する。	H21年5月以降～	H21年度は9月にパーベQ大会を開催した。12月にもクリスマス会を開催し、親睦を深められた。特に家族が心配されるご利用者のお体のことも主治医の先生に参加して頂いて、お話をしてもらったことで安心感がより深められた。	年2回の開催を目標としたので、達成できた。	H23年～
外19	3	重度化や終末期に向けた方針の共有で家族会や運営推進会議等、機会のあるときに繰り返し家族と話し合っ共有を図ること。	H21年5月以降～	H21年9月以降、協力医療機関の変更に伴い、夜間を含めた急変にも対応可能となった。また、併設の訪問看護ステーションとの契約もあるので、看護での対応もお願いすることができるようになった。 しかし、積極的な看取りについては、グループホームの運営上、行っていない。このことは入居時はもちろんサービス担当者会議等で、説明し共有を図っている。その上でご利用者にとって最善の方法を検討している。	終末期に係るご利用者の方には特に具体的に協議している。ほぼ達成できている。	H23年～